

あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決！



あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。

大和市民活動センター[拠点やまと] 第62号 2012年9月1日発行

2012
9
月号



高座渋谷駅から10分、千本桜の引地川沿いに9月下旬彼岸の时节にはヒガンバナが群生しています、市街地でもところどころ見かけます。



●喪われた風景 大和の古民家シリーズ・第3回(最終回) わら屋根の家(深見) 絵・大久保信昭

生活のある古民家を描き続けた大久保信昭さん(民家園などに保存されている古民家は)「文化財としての価値はあっても、人の住んでいない家には、血の通った息吹がなく、ただの模型にすぎない」(朝日シテニューズ昭和58年(1983年)8/12(金)付)と、大久保さんは語っています。日本の自然と溶け合い、一体として生きてきた日本の住まい。前号と本号の「わら屋根の家」

の絵は「大和市史」(2巻)の見返しに色刷りで掲載されています。ぜひ「大和市史」を市の図書館や学習センターで手にとって、ご覧ください。

.....
大久保信昭さん(1930年生まれ～本年2012年死去)
画家。元大和美術協会会長。大和市深見台に長く在住。

カッコーフェスタ'12(第7回市民活動団体交流まつり) 11月3日(土)・4日(日)実施。

参加したけど、こうしたら良かった・こうだったら参加する・企画に参加してみたい等ご意見を募集します。

初回打合せ 9月27日(木)16:00～18:00 場所:大和市民活動センター

<送付の際、同封されているご案内>

・第55回連続共育セミナー「NPO法改正/新寄附税制/会計基準」9/14(金)開催のご案内

*「あの手この手」は大和市民活動センターのHPではカラーでご覧いただけます。

「楽しかったよ」 このゆびとまれっ！



2012年 夏休みボランティア体験 無事終了
中・高校生

～ひっぱりだこで困りました～

「しんちゃんハウス」の子どもたちと遊ぶ

7/26(木)、8/17(金)、8/20(月)、8/23(木)、8/24(金)に実施。

高校生・延べ7名、中学生2名(8/23)が参加。

- ・最初はどやうやって話しかけようか迷っていたけど、子どもたちが、「スピードやろう！」と声をかけてくれたのでとてもうれしかった。「ケイドロ」の時はみんな協力して逃げたり捕まえたり、とても楽しかった。
- ・室内ではトランプやオセロで遊び、遊びの中で「危ないからダメだよ」とちゃんと注意することもできた。
- ・「おねえちゃん、あやとりしよう」、「ピアノ聴いて」ひっぱりだこでうれしかった。



目に障害をもつ人たちとの交流

「サウンドテーブルテニスクラブ」の方々といっしょに

～球を耳で追いかけます～

○卓球をする

7/30(月)、8/6(月)、8/20(月)に実施。

高校生・延べ12名が参加。

- ・アイマスクも着けずサウンドテーブルテニスに3回も挑戦したのに1回も勝てなかった。悔しい、いつかリベンジ！
- ・目が見えなくてもこんなに楽しくスポーツができることはすごいと思いました。

～伝える言葉の大切さ知りました～

○誘導体験(講師:本告(もとおり)喜彦さん)

8/6(月)に実施。高校生12名が参加。

- 80歳代の本告さんの講義の後、高校生は二人一組で公園をひとまわりして誘導のコツを体験しました。
- ・誘導する時は、なにげなくやっていたが、誘導される時は怖かった。
- ・誘導される時は言葉だけが、頼りだった。
- ＜いざ実践＞「センター」からウィーンホールまでの誘導は大雨・洪水警報発令中でしたが、3名の高校生が午前中の体験で学んだことを一生懸命に実践した。

～温かい握手の挨拶～

○コンサート観賞・交流会

声楽者や演奏者が舞台から降りて視覚障害のひとりひとりと握手で挨拶してコンサートが始まりました。



＜大和視覚部代表の小倉光利さんからのお便り＞

昼からの突然の大雨にも負けずに大きな歌声。ソプラノの声量ある伸びのある声。久しぶりに本物の歌を聞くことができました。誘導してくれた高校生のみなさんは初めての視覚障害者の誘導が激しい雨の中でした。「でも、われわれはそんな時ほど誘導していただきたいのです」

～すっかり川が綺麗になりました～

「引地川水とみどりの会」と一緒に川掃除

7/28(土)に実施。高校生10名、中学生3名、小学生1名が参加。

- ・僕は体を動かすのが好き。とても暑い日だったが、水の中は涼しく快適。川底から直径1cmくらいのワイヤーロープが突き出しており、3人がかりで抜こうとしたがダメ。「抜けたら10万円！」のかけ声もかかったのに残念。来年こそ、五味さ～ん 10万円用意しといてねえ～！



＜引地川水とみどりの会事務局長の五味尚生さんのコメント＞

川に入るのが待ち遠しい子、恐る恐るフェンスの間から川の様子を伺う子。2・3人のグループになってもらい、そこに1・2名の経験メンバーが付き添い、いよいよ川の中に。気温33度、水温24度。全身ずぶ濡れで頑張った生徒さん、暑い中、ロープでゴミを引き上げてくれた生徒さん、本当にありがとうございました。川が綺麗になり海の動物もゴミを誤飲しないですみます。

～紙ヒコーキ、空までとどけ～

知的な障害をもつ子どもたちと交流

「ワン・ピース」の子どもたちとあそんだよ

8/9(木)に実施。高校生9名、中学生1名が参加。

かき氷を食べた後、みんなでお隣の大和公園で鬼ごっこや砂場で泥だんご作りをして遊びました。ブランコから離れない子ども、滑り台の上でスタッフに支えられながら皆を目で追っている子どもなど思い思いに遊んで楽しんでいました。人気はセンタースタッフが作った紙ヒコーキ。皆で飛ばしこの競争をして子どもも大人も大興奮。

- ・障害児と一緒に遊ぶとつかれました。でも楽しかった。(中学生)
- ・初めての参加で不安に思うことありました。あまり自分から話しかけたりはできなかったけど、子どもたちから笑顔で話かけてくれてうれしかったです。
- ・私は生まれた時から障害を抱えている兄と一緒に生活しています。人によって何が好きなのか、何をすることが楽しいのか兄とはちがった性格の人と楽しくすごしました。



＜サウンドテーブルテニスクラブの高橋ミヤさんからのお便り＞

夏休みボランティア体験で高校生12人が私たちの練習相手や「点めぐり」「ボール拾い」などされました。若さ溢れるエネルギーに圧倒されながら一緒に楽しい練習ができて感謝です。競技ルールも若いだけにすぐに覚えてなかなかの腕前で、皆さんに「楽しかった！」とっていただき、障害者スポーツに興味と理解を深めてくださったようで、本当にありがとうございました。(ご主人代筆)

広く市民に着目し活動を支援しています

8月23日(木)に「茅ヶ崎市民活動サポートセンター」を訪問

指定管理者:NPO 法人 NPOサポートちがさき代表理事とスタッフ
にお会いして、お話を伺いました。

センターは、利用予約なしのフリースペース(無料)のみで、利用者の自主性にまかせ、スタッフは市民活動をする人の相談を重点に運営されています。

- ・若い人を意識して事業を企画し、テーマはターゲットを絞って結果を想定し決めているので若者が集まりやすいようだ。
- ・市民活動団体ガイドブック作成、相談処理票のデータベース化などを積極的に行い、ただ情報をストックするだけでなく、常に活用、更新し日々の活動に役立てていた。

(拠点やまと/浅見正明)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

トップページをリニューアル 「センター」ホームページ

8月24日(金)
スタートしました

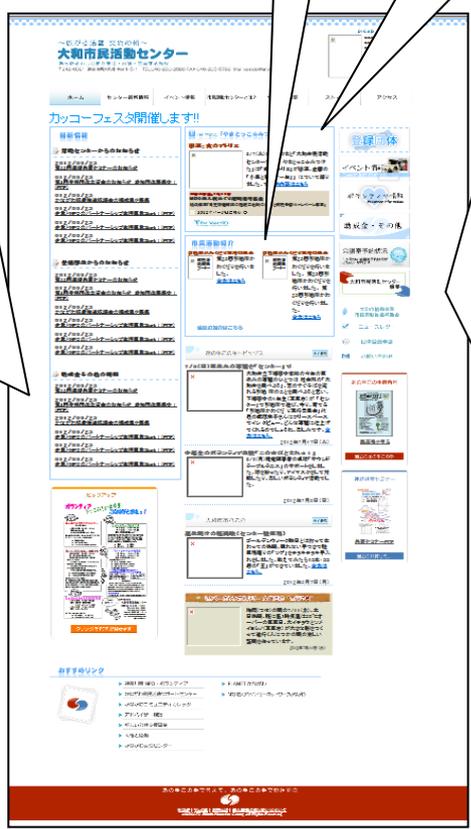
トップページからお知らせが探しやすくなりました

市民活動団体からのお知らせをピックアップ
あなたの活動をお知らせください

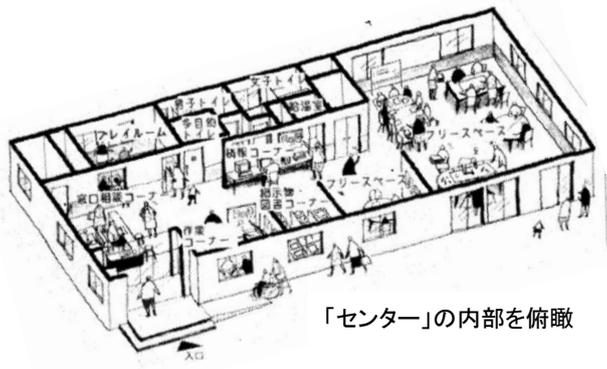
「市民活動紹介」「大和市あれこれ」を表示

FMやまと「やまとっこ☆みつけた」の最近出演者と次回出演者を紹介

「左側」市民活動センターからのお知らせ、助成金・その他情報。特に、登録団体からのお知らせの内容等を表示



「右側」登録団体、イベント、ボランティア、会議室予約状況、「あの手この手」最新号、連続共育セミナーのお知らせ等を表示



「センター」の内部を俯瞰

若い人のセンスに脱帽

茅ヶ崎市民活動サポートセンターでは、NPOに興味があった20代や公務員になりたい学生をスタッフとして受け入れています。大学教授からの推薦や、市役所のアルバイトから引き抜いて人材を確保しています。若い人のセンスはチラシのデザインや新しいメディアを積極的に活用するような情報の伝え方に存分に活かされていて茅ヶ崎の市民活動のけん引役は若い年代になりつつあるようです。この訪問で世代交代のヒントを得ることができました。

(茅ヶ崎市民活動サポートセンター同行
市民活動課/村山真弓)

連続共育セミナー

次回の第55回連続共育セミナーは
 テーマ: NPO法改正 新寄附税制 会計基準
 ~知っておきたいポイント~
 と き: 9月14日(金) 18:30~20:30
 ところ: 渋谷学習センター(IKOZA3階)305講習室
 (小田急江ノ島線高座渋谷駅西口、有料駐車場あり)
 無料
 講師: 手塚明美さん
 (ソーシャルコーディネーターかながわ理事)

内容: 信頼される組織になるために、どのように活用すればよいのか、実務につながるポイントを学ぶ。

8月15日(水) 晴れ
 市立下福田中学1年の女生徒が引地川かわくわり実行委員会代表の飯塚さんをフリースペースでインタビュー。夏休みの宿題「大和市を調べよう」。家のそばを流れる引地川のことを調べることにして、引地川の昔と今、きれいになった川にハグロトンボ等生き物が戻ったなど、1時間ほど真剣に聞いていた。うまく宿題ができあがりそう。





大和市民活動センター[拠点やまと]が制作発行する 月刊広報紙「あの手 この手」。

2012年9月号(第62号)をお届けします。

真夏日が続き、暑さが一向にやみません。

市内の公立小中学校の夏休み明けは8月27日(月)。ちょっと前までは8月いっぱいはずっかり「夏休みの日」でしたが。

さて、

毎週金曜日に朝刊に折り込まれて届く「タウンニュース大和版」8/24号に「市教育委員会 27日に緊急メッセージ 全校の児童生徒へ一斉に」という見出しがありました。「緊急?」、いったいなんだろうと、急いでその記事を読みました。

「いじめ」が深刻な社会問題になるなかで、市内の公立小中学校全校にいじめ緊急メッセージを発信することになったとありました。入手したその「メッセージ」というのは、小中学校ほとんど同文のA4判のチラシ1枚。夏休み明けの27日(月)、市全教師が各クラスの全児童生徒に配布するというものでした。市教育長の滝澤 正さんは「大切な大和市の子ども。幸せに生活する権利(人権)を持っている」とした上で、『「いじめはしない! させない! ゆるさない!」とする大和市のストップいじめ宣言を実行できるよう、この時期に改めて市内全校で一斉に指導強化を図ることにした」と、記事にありました。

周知徹底、指導強化。これ、今回も「いじめ問題」で全国の教育委員会から何度も見、聞く四字熟語です。

ある2日間、終日小学校のクラス担任に張り付き取材をしたことがありました。登校指導から下校指導まで、先生は息つくひま、ほとんどなし。「教師はみんな早メシ早クソが特技です。先日、箸と赤ペンを間違えてしまった。アハハ」。「はい、この120枚、今月の報告書の分。校長だって全教師の分、読めるわけないですよ」。『「先生、あのね」と子どもが来ても、『あとで』と返すことがもうすっかり身につけてしまいました」。これが今の教育現場のひとつの現実です。

「チラシ」の「保護者の皆様へ」のところに「学校でも子どもたちの様子を注意深く見守ってまいります」とあります。確かにそうでありたい。クラスの子、一人ひとりをよく見ることができたらどんなにいいか。

「いじめはしない! させない! ゆるさない!」と最初から声高に規範を指導強化するのではなく、子どもたちの声に耳を澄まし、子どもたち自身に解決能力があることを信じ、見守り待つ、その余裕を現場の先生方に保障することこそが課題を解決する確かな道筋になるのではないかと、私は思うのですが。 記・小杉皓男[拠点やまと]広報係 2012/08/28

(おわび:前号末尾に(次号に続く)とした内容は10月号の「お届け文」に続きます)



イラスト・望月則男